

E 化学・古文 『枕草子』の情景描写について 担当：理科（化学）・国語科教員

研究課題 A 科学的探究力を育成する取り組み B 情報実践能力を育成する取り組み

仮説 ① 必要な情報を提示されることにより、課題を解決することができる。

② 物理、化学、生物の分野を融合することで、総合的な科学的探究力を育成できる。

研究内容・方法 (実施期日) 11月15日 第6校時 (対象学年) 3年4組(40名)

(教材) プリント (割当時間) 1時間

(探究主題) 『枕草子』の冒頭の情景描写を科学的に考察する。

(授業展開) ① 枕草子の冒頭部分の発展させた解釈を、国語の教員が質問を投げかけながら説明する。

② 化学の教員が、山際が赤く見える理由を、個人、次にグループで考えさせ発表する。

③ 赤紫色とはどんな色なのかを、個人、次にグループで考えさせ発表する。

生徒に与えるものは、色相環、光の波長と色、赤紫色の溶液のスペクトル光の三原色の関係図など、必要最低限にとどめ、思考させることに重点を置いた。

検証・課題 (1) 検証：古文においては、『枕草子』の解釈について、「ひらがなで書かれているため、読みは同じだが意味が異なる解釈があり、面白いと思った。」の感想が大多数を占め、二つの意味を理解できていた。光の散乱、赤紫色については、物理で学んだ光の散乱や、コロイドのチンダル現象と結び付けることができた。錐体細胞の働きについても理解できた。

(2) 課題：多くの生徒から「異分野がつながる面白さ」「世の中には文系と理系と区別のないことを改めて感じた」など、多角的な視点を持つことへの興味関心がみられた。しかし、このような授業は、内容面も時間面も難しい。普段から他教科の教員同士が話をする時間が確保できる余裕を持つことが一番の課題である。